

開催日:2023年12月17日(日) 18:00~20:00

会場:Zoomによるオンライン会

参加者: 清水(49C)、鶴岡(44M)、佐野(62W)、阿部(雅)(47修C)、松永(47C)、
吉平(50C)、阿部(桂)(46修S)、二宗(46M)、
森口(四国)、中村(四国)、金井(川越)、麻生(川越)、荒井(佐野)、小西(さいたま)、
松原(さいたま)、堤(宇都宮)、星野(高崎)、柳瀬(熊谷)、瀬尾(四国)、

合計 19名

気候変動の大きい今年だったが12月中旬になると「冬だなあ」という声が参加者の近況報告からたくさんあった。

四国では雪が見られたとか、全国的にも昨日の風で街路樹や庭の木々の葉が落ちたとか、年末の風景となってきた。

そういう中でも参加者の皆さんは元気で、ボランティア活動に参加したり、寒くて体が痛いと言いながら体を動かしている人が多い。

久しぶりに桐生へ行ってきたが、街の様子がだいぶ変わっていたという報告もあった。



今回は、さいたま支部の松原郁也さん(修56C)の「国定忠治について」というテーマでの話であった。

松原さんは忠治と同じ国定村で生まれ、祖母あるいは親戚か

らは国定忠治は「実家に迷惑を掛けたヤクザもの」と言われただけで、小学校で教材にされることもなかった。

一方、東海林太郎の赤城の子守歌やTV、映画の股旅ものでは「ヒーロー」扱いのところがあり、地元と演劇、歌謡界との扱いに子供のころから違和感を持っていた。詳しい知識もないのに社会人になって、出身地の説明に「忠治ネタ」を使ったことでもあり、忠治について詳しく調べてみようとしたのがきっかけであった。

発表のため8月からいろんな資料を集めた。

自宅にあった村史から市町村のHP、文庫本、GoogI AIを使った検索等広範囲であった。



忠治は任侠(博徒)のルールに徹し決して堅気には絶対に迷惑をかけず、逆に天保の大飢饉では幕府が実施すべき窮民救済を独自に実施した。半面、博徒仲間の殺害、関所破りなどで全国

手配となり、逃げまわったがとうとう捕縛され磔刑された。

地元では恩恵より被害の方が多く「やくざ者」としての扱いが優勢。一方「任侠のルールを守り」、「腐敗した代官の手先にならず、幕府・代官に代わって窮民救済を実施した」点で、講談や大衆演劇では「ヒーロー」としての伝説を広めたと結んでくれた。

地元では公的には白か黒かの評価はむつかしくイベント等も行われていないのが現実である。



忠治の墓



幹事のつぶやき一言

いろんな文献や資料を調査し、史実を皆さんに紹介してくれたことに関して、参加者からの高い賛辞が贈られた。参加者間で評価についてはいろんな意見も出て、今回は良い勉強会になったとの声が多かった。

文責 二宗(46M)

今回の参加者

